



鏡島小・吉田小合同記録会 6月11日(笹山陸上競技場)

巻頭言 『今も昔も』

教育長 渡辺正範

私は、旧川西町のわずか5軒の山間集落に生まれ育ち、片道4kmの山道を学校まで通いました。道路除雪など考えられないところでしたから、冬は小学校1年生から寄宿舎に入りました。

寄宿舎といっても民家を一部改装した簡易なもので、同じような条件のもう一つの集落の子どもたちとともに、12月から3月までの4か月間、まかないのおばさんも含めて共同生活を送りました。小学生と中学生合わせて11～12人くらいでしたが、小学1年生から見ると中学生はもう一端の大人で、イジラレもしましたが、遊びでも勉強でもいろいろ面倒を見てもらったものです。

そこに、毎日交代で小学校と中学校の先生が宿直に来ていました。先生も大変な務めですね。夕方、カラカラと玄関の戸を開ける音がすると、夕食の合図です。配膳から片付けまで子どもたちにはそれぞれ役割があり、低学年は箸と茶碗の配布が主なものでした。先生の宿直室にお茶を運ぶ仕事もありました。お気に入りの先生の話を知りたくて、志願して二階まで運ぶ途中、お盆ごとひっくり返したこともあります。

今思うと、大変なこともありましたが、この寄宿舎生活そのものが小中一貫教育の一つの姿だったのかもしれない。当市取組の重点「自己有用感を高める」ことも、自然と身についていったように思います。

今は昔…の話ですが、子どもが育つ環境は学校、家庭、地域の三拍子が揃うことだと、今も昔も変わらぬ真理に思いを巡らせているところです。

小中一貫教育

■ 褒めれば「自己有用感」は高まる？

成績も上位で、運動能力も高く、褒められる要素をたくさん持っている子どもの中にも、「自分はダメな人間だ」と決めつけているような子どもが見られます。皆さんの教室にも、十分な力を持っているのに「自分はダメだから」と力を発揮する場面を固辞するような子どもはいませんか。褒められる機会が少ないはずがないのに自己肯定感が極めて低いのです。

私たちが高めたいと取り組んでいる「自己有用感」は、「他人の役に立った」「喜んでもらえた」といった他者とのかかわりの中で育つものだと言われています。ですから、他人から褒められることも「自己有用感」を高めるために有効にはたらくと思われま

しかし、誉め言葉をシャワーのように浴びたとしても、実感が伴わないときは逆に作用する場合があります。思春期になって周囲の目が気になったりすると尚更かもしれません。褒め言葉をかけられたかどうかより、認められたと実感できるかということが大切なのではないでしょうか。

では、どうすれば認められたと実感できるのでしょうか。国立教育政策研究所の長田徹さんは、「自己決定」を促すことと「集団決定」の機会を与えることが大切であり、その際の教員の役割は、「自分たちで課題を解決したというリアリティをもたせること。すなわち自治を実感させること」と言っています。なるほどだと頷けます。

日々の授業やその他の教育活動を、「自己決定」「集団決定」の場を設定し、子どもたちに自分たちで課題を解決したという実感をもたせるという視点から見直してみることも大切かもしれません。

■ 「自己有用感を高める授業づくり・学級づくり」

～ 8月5日(木) 中学校区教職員合同研修会～

1年おきの開催となった小中一貫教育中学校区教職員合同研修会を実施します。各学校の小中一貫教育コーディネーターの方々とも相談し、今年度から継続して取り組むこととなった「自己有用感を高める取組」について取り上げることとしました。

講師は、上越教育大学大学院教授 阿部隆幸様です。NPO法人「授業づくりネットワーク」副理事長であり、主な著書に「『学び合い』×ファシリテーションで主体的・対話的な子供を育てる」「学級経営が主役のカリキュラムマネジメント」「『学び合い』が機能する学級経営」があります。

新型コロナウイルス感染防止の観点から、中学校区ごとの分散開催・短時間・グループ等の協議なしというこれまでとは違ったスタイルになりますが、そこで研修したことを日々の授業や学級づくりに生かしていただければと思います。



教育相談班より

「不登校・いじめの減少」に向けて

第1回いじめ防止対策研修会 5月20日（木）千手中央コミセン

管理職対象とし、中越教育事務所学校支援第2課の佐藤典人指導主事より講師を務めていただきました。いじめの法令理解、組織対応などについて、校内研修として活用できる内容となりました。特に、未然防止としての「**魅力的な学校づくり**」のために、児童生徒がつくる「絆づくり」と、教職員がつくる「居場所づくり」が基盤であること、日々の教育活動の中で「**自己指導能力の育成**」が大切であること、を指導していただきました。

第1回不登校対策研修会 6月14日（月）千手中央コミセン

不登校担当職員を対象とし、中越教育事務所学校支援第2課の長谷川成生指導主事より講師を務めていただきました。研修を通してのキーワードは「**つながり**」。不登校の未然防止や初期対応、校内支援体制などについて、十日町市「不登校予防のための早期対応マニュアル」を使用しながら研修を進めていただきました。不登校の未然防止としての「**魅力的な学校づくり**」のために、児童生徒がつくる「絆づくり」と、教職員がつくる「居場所づくり」が基盤であることなど、上記と共通する生徒指導の基本を学ぶことができました。



市や中越教育事務所等が作成した生徒指導に関わるリーフレットやマニュアルは、市の共有フォルダ（下記参照）に入れてありますので、有効にご活用ください。

Edfsv01 ▶ 職責別 ▶ 01_学校間共通 ▶ 01_共通様式集 ▶ 07_生徒指導

「特別支援教育の充実」に向けて

インクルーシブ教育システムの理念に基づく特別支援教育の推進

新潟県の特別支援教育に関する状況から、「障害がある子どもも、障害がない子どもも、可能な限り同じ場で教育を受けられる」インクルーシブ教育システムの理念にやや逆行している現状があります。そこで、インクルーシブ教育システム推進のために、以下の2点を推進していきます。

① 障害のある子どもの適切な学びの場を判断すること

就学判断に向け、「客観的根拠の収集」「通常の学級での支援（授業改善・学習環境の調整）の試行」「根拠をもった就学判断」の3つを大切にします。

特に、自閉症・情緒障害学級と発達障害通級指導教室の違いをご確認ください。

	一斉指導	学習内容	障害の程度・状態
自閉症・情緒障害学級	一斉指導困難	下学年・当該学年の内容	集団参加の困難 対人関係形成の困難
発達障害通級指導教室	一斉指導可能	当該学年の内容	不適切行動（離席・暴言・落ち着かない、など）

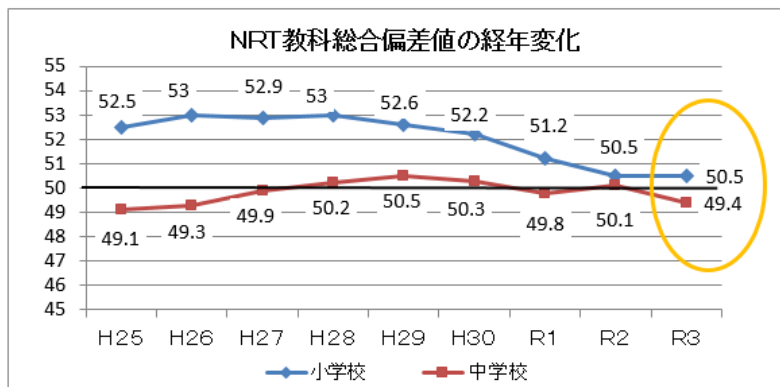
② 特別支援教育に関する教員の専門性の向上を図ること

今年度よりレベル別の研修講座を開設しました。特別支援学級担当者のみならず、管理職や通常学級担任など全ての先生方から参加していただきたいと思います。随時配付される研修案内等をチェックしていただけると助かります。

学習指導班より

NRT標準学力検査の結果から

4月に実施したNRT標準学力検査の結果がまとまりました。市全体の状況は、以下のとおりです。

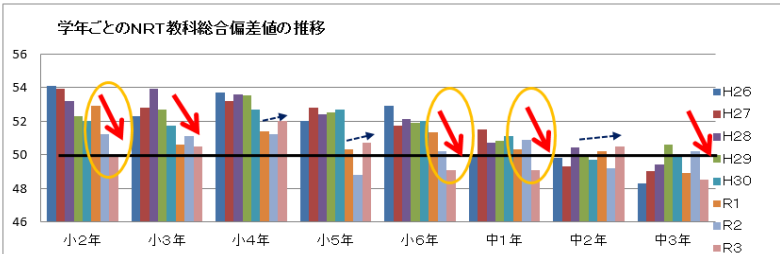


【小学校】

- ・ 昨年度と同値であり、目標である53.0には届いていません。

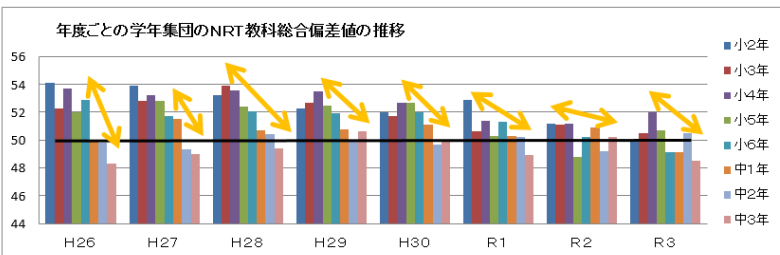
【中学校】

- ・ 再び50.0を下回っただけでなく、H26以来の低い数値となり、大変厳しい状況です。

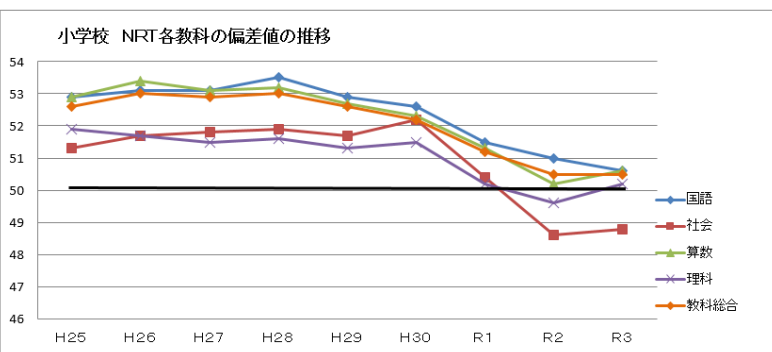


小2・6と中1の下落幅が大きいことから、小1・5・6年の学習内容の定着が課題と言えます。

平成までは53.0以上だった小学2～4年でのポイントの低下が、平均値の下落につながっています。小学校低学年での学習内容の着実な定着が、喫緊の課題と言えます。

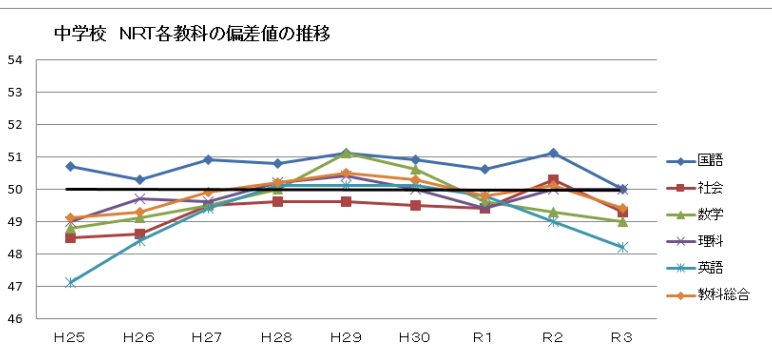


【各教科の傾向】



【小学校】

国語以外の3教科は、昨年度よりわずかですが向上しました。国語の力、特に読解力が、他教科の学習内容の定着に影響している可能性があります。



【中学校】

理科以外の4教科で前年度値を下回りました。昨年度向上した社会科も再び低下しました。国語と英語の下げ幅が大きい状況です。

- ◎ 学力向上は、NRT 学力検査の結果を上げることのみが目標ではありません。しかし、NRT をはじめとする各種学力検査の結果は、児童生徒の学力の一側面であり、重要な指標です。校長会や教頭会、学力向上推進会議や計画訪問でもお話しますが、各校では結果を丁寧に分析して自校の課題を学年・学級ごとに明確にし、全教職員で共通理解を図った上で、授業内外での具体的な方策を講じていくことが必要です。小学校では学級担任を中心に授業担当者や教科主任で、中学校では教科主任や授業担当者を中心に、具体的な方策について夏季休業中に検討し、2 学期からの指導に生かしていただくようお願いいたします。

【表紙写真の説明】

今年度の小学校親善陸上大会は、笹山陸上競技場の改修等の事情により、開催されないこととなりました。鑑島小と吉田小では、子どもたちに専用競技場で競技する経験をさせてあげたいということで、「鑑島小・吉田小合同記録会」を行いました。吉田中学校職員や保護者ボランティアの協力もあり、中学校区を挙げての取組となりました。子どもたちからは、楽しかったという声上がり、保護者からも目の前で子どもたちの頑張る姿が見られてよかったという声がありました。

タイムリーであり、地域の特色が現れた取組だと思います。

学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～8・9月～

期 日	内 容 ・ 会 場	備 考
8 月 4 日(水)	郡市事務職員研修【情報館】	
8 月 5 日(木)	小中一貫教育中学校区合同研修会 【中学校区ごとの分散会場】	講師：上越教育大学 教授 阿部隆幸 様
8 月 6 日(金)	特別支援教育研修講座 ～初級講座①～ 「特別ではない特別支援教育の推進Ⅰ」 【千手コミセン】	講師：ふれあいの丘支援学校 校長 小網輝夫 様 対象：管理職、通常学級担任
8 月 18 日(水)	初任研ボランティア体験研修【三好園】	
8 月 19 日(木)	特別支援教育研修講座 ～中級講座②～ 「教育相談・保護者との連携」 【情報館】	講師：ふれあいの丘支援学校 金森史子 様 田ロー浩 様 対象：特別支援教育コーディネーター 特別支援学級担任
8 月 23 日(月)	イングリッシュキャンプ【千手コミセン】	小学 5・6 年のみ（午前）
9 月 3 日(金)	小学校外国語サポート訪問【上野小】	
9 月 8 日(水)	第 2 回学力向上推進会議【川西庁舎】	
9 月 13 日(月)	小学校外国語サポート訪問【下条小】	
9 月 14 日(火)	学力向上計画訪問【松代小】	松代中学校区
9 月 21 日(火)	学力向上計画訪問【中条中】	拡大中学校区
9 月 28 日(火)	小学校 5・6 年外国語授業参観研修【千手小】	

